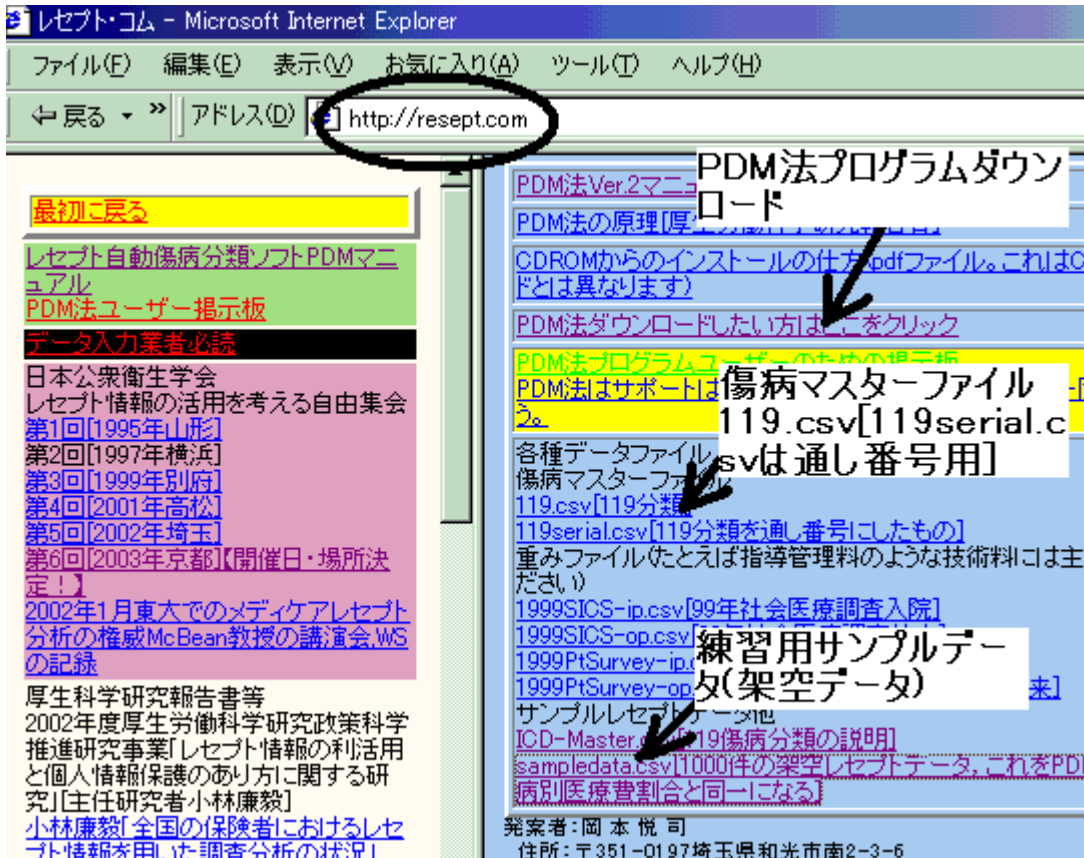


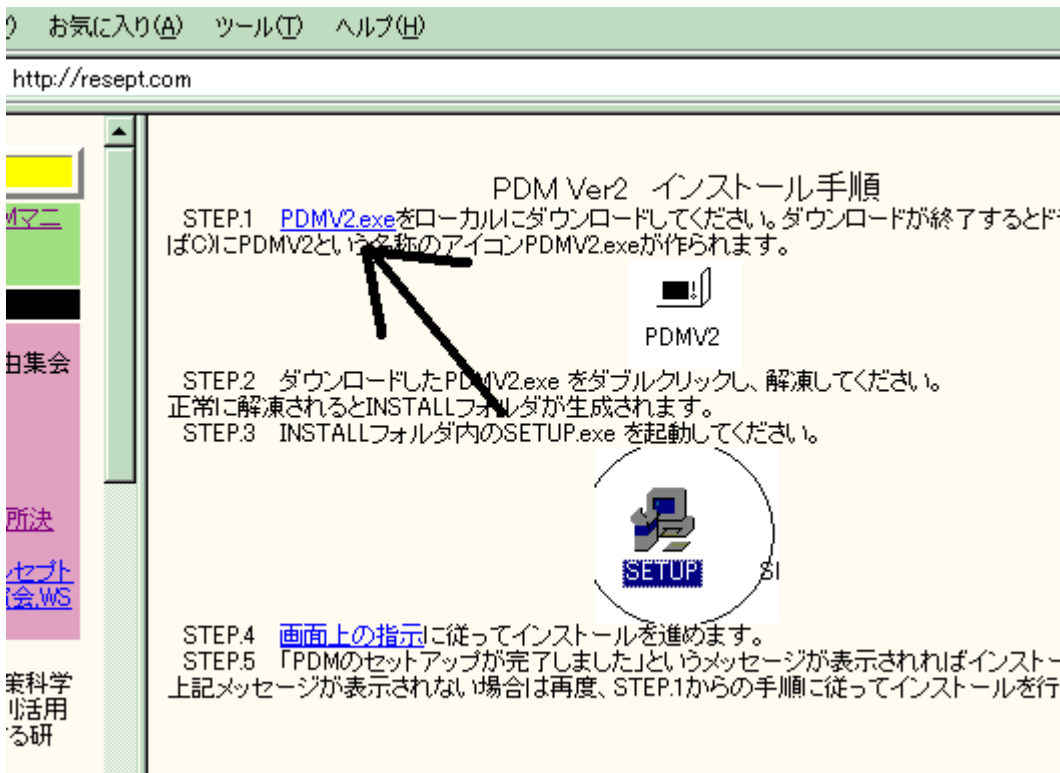
PDM 法プログラムの使い方

【1】 PDM 法のプログラムをインターネットからダウンロード

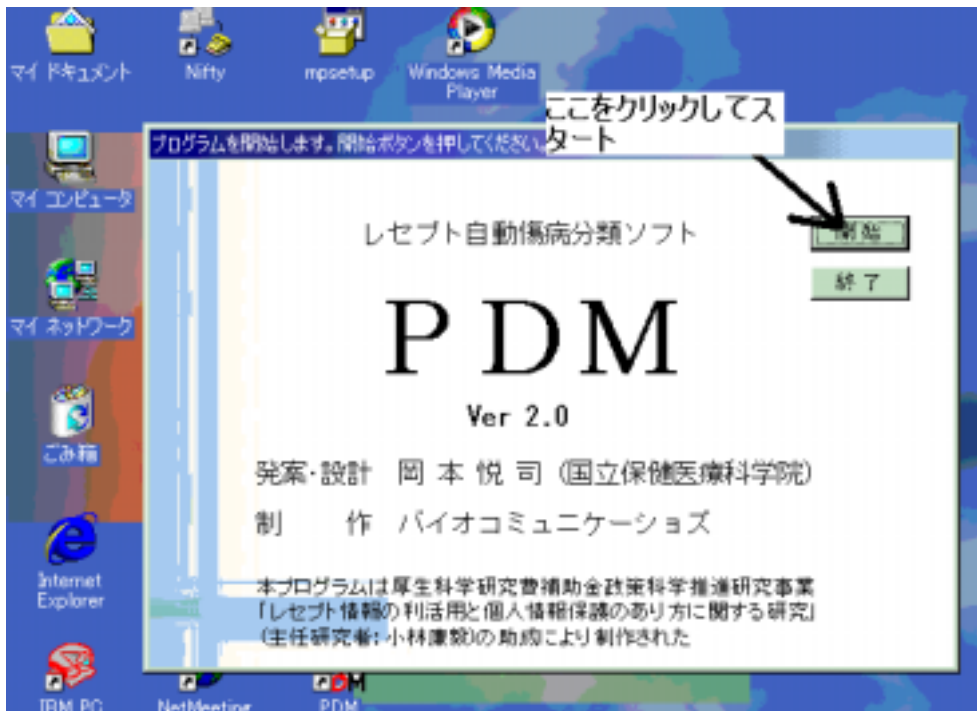
<http://resept.com> にアクセスし、3つのファイルをダウンロードする。



【2】まずPDM法をコンピュータにインストールする。インストールするとプログラムアイコンにPDM法が追加される。



【3】インストールできたら早速スタート。PDM法のアイコンをクリックすると以下のような初期画面が出てくる。



【4】PDM 法プログラムは、データ読み込み->データ修正->集計の手順をとる。左側の「データ読み込み」をクリックし、レセプトデータと傷病マスターデータのファイルを指定する。傷病マスターデータは119分類なら119.csvを使うが通し番号であらわす場合(通常の119分類は101,102,103と続くが1,2,3,・・・とする場合)は119serial.csvを使ってください。

重み付けデータファイルは通常は空白のままです、たとえば全体を分析したあと、男女別に集計したり、地区別に集計する、といった場合に、まず全体の集計を保存したファイルから「重み付けファイル」を作成保存しここに指定する。

ファイルを指定したら下の「チェック開始」をクリックすると右側の数字が動きだし、ファイルの読み取りが始まる。ここで、エラーがでるとエラー欄に表示される。たとえば1805のような存在しない傷病コードがあるとそれがエラーで表示される。エラーがでると読み取り終了後に「データ修正」をクリックして修正し保存する。



【5】レセプトデータファイルの内容

これは分析するレセプトデータファイル sampledata.csv を Excel で表示したものである。PDM 法で分析するレセプトデータは必ずカンマで区切られたテキストファイル(csv[comma separated value]ファイル)でなければならない。そし

て左より通し番号, 日数, 点数, そして傷病コード(傷病名は最大30まで)と続く。このうち通し番号は処理とは無関係であり, 専らエラー修正時のめやすとして使用する他, たとえば男女別に集計するのなら単にM,Fとしてもかまわない。

通し番号(意味はない)	日数	各レセプトの点数	119分類傷病コード(最大15)						
			D	E	F	G	H	I	
1	1	218	104	1003	1202	702	901	402	
2	2	405	1010	1105	1202	505	1310	704	
3	3	218	4306	402	1002	901			
4	4	217	5824	702	603	702	503		
5	5	527	12927	1005	501	704			
6	6	218	7900	903	901	1202	1104	702	
7	7	146	782	1202					
8	8	261	2130	1007	1002				
9	9	357	9276	1308	1007	505	1010	505	1901
10	10	367	854						
11	11	218	5645			704	703	901	
12	12	261	1585			902	1007	1105	1010
13	13	341	928			1107	1901		
14	14	261	6250	1007	1100	901			
15	15	383	13449	1006	901	901	1001	107	1304
16	16	325	7231	702	803	1104	901		
17	17	202	790	606					
18	18	218	2827	901	1202	701			
19	19	367	1608	1202	1308				
20	20	132	942	701					
21	21	383	1030	1304					
22	22	249	5223	1905	901	1404	910		
23	23	405	8823	104	1302	1005	901		
24	24	325	8210	803	901	1104	1002	901	1305
25	25	497	9694	901	1303	1003	505		

【6】データ読み込みが終わると次は集計である。ここで重み計算の方法と補正次数を指定しなければならないが, デフォルトでは「日傷病当点数を用いる」「二次補正」が指定されているので通常はこのままでよい。集計結果は画面に表示されるがExcel でグラフ化したりする場合はテキストファイル出力を選択し, ファイルのパス名と名称を記入する。それらを記載しおえたら「集計開始」をクリックする。

み付けデータ:

集計処理時のオプション:

重み計算の方法: 3: 重みに日・傷病当り点数を用いる

補正次数: 2

重み付けデータを使用する 日数配分結果データファイルを出力する

点数配分結果データファイルを出力する

集計結果をテキストファイルに出力する

ファイルパス: d:\PDM\sampladata-result.csv

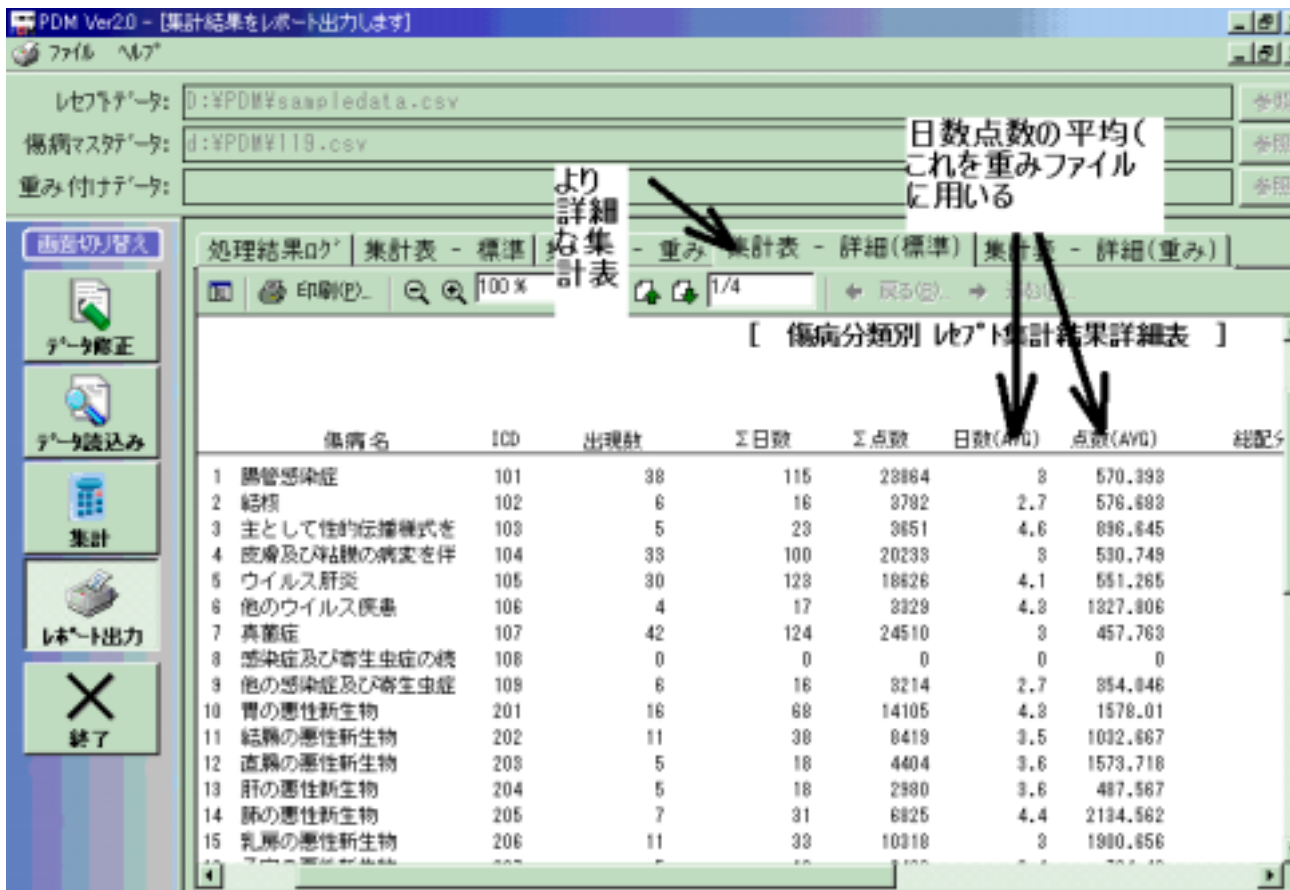
集計結果をファイル保存する場合はパスを記入(重みファイルを作る時は必ず保存)

傷病分類別 日数、点数の集計:	読み込み件数	1000
	集計済み件数	1000
各レセプト内の傷病分類別 配分日数、配分点数の集計:	読み込み件数	1000
	集計済み件数	1000

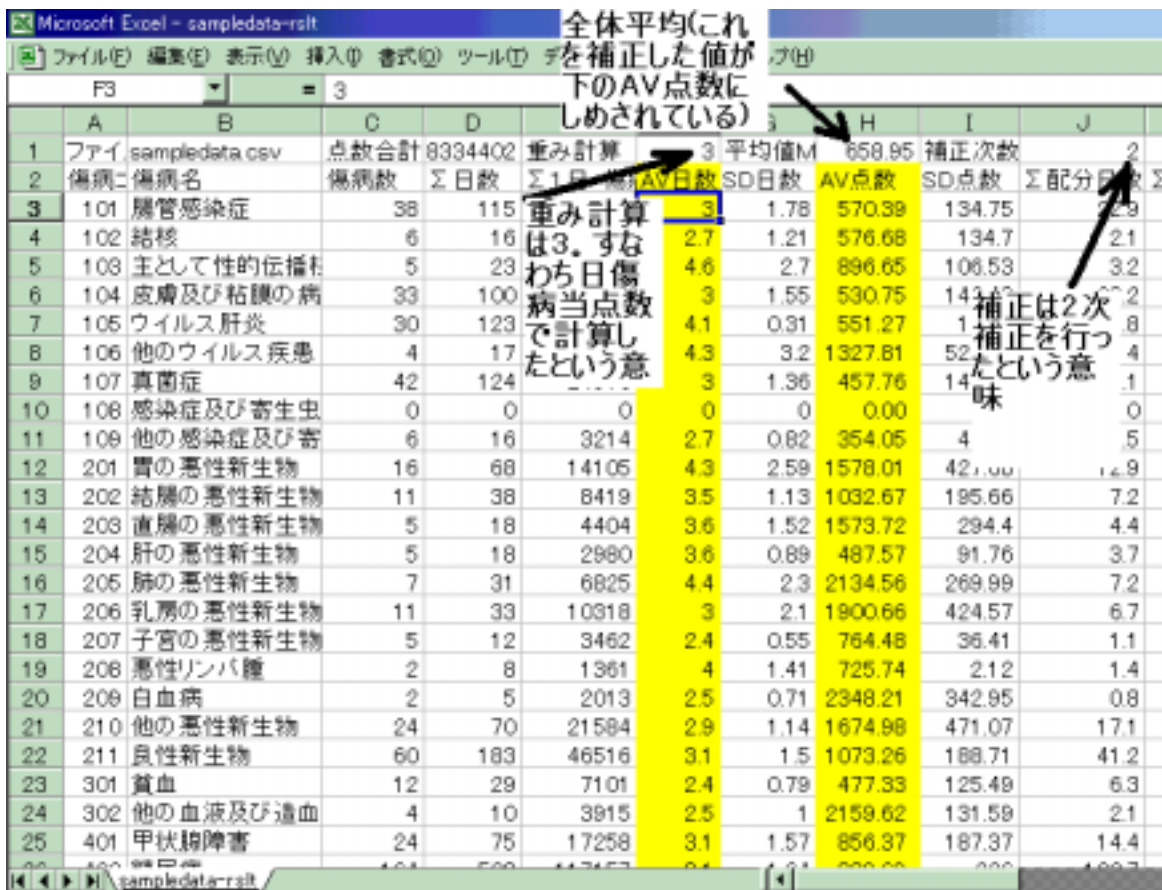
【7】集計が終わると「集計完了 レポートを表示しますか?」と表示される。YES をクリックすると以下のようなレポートが表示される。「テキストファイルに出力する」をチェックしていた場合, 同内容の csv ファイルが指定されたフォル

ダー内に生成されている。

レポートはタテ書きの簡略のものと、ヨコ書きの詳細なものがある。リストファイル出力されているのは詳細なものである。なお重み付けファイルを使用した結果は(重み)とされたものに表示されるがここでは重み付けファイルはついていないからこれらの部分は空白である。



【8】出力ファイルを Excel で表示させたものが以下の通りである。出力ファイルは一番上の行に、分析対象となったレポートデータのファイル名、点数の合計、点数の重み計算の方法、点数の全体平均値、そして補正次数が表示されている。



【9】重み付けファイルの作り方

通常レセプトデータを分析するときに重み付けファイルは不要であるが、それが必要になる場合がある。たとえば男女別に分析したい場合、元のレセプトデータファイルを男女別に分けて別々に PDM 法にかけて結果を出すと、たとえば男の糖尿病と女の糖尿病の点数や日数の合計は男女合わせたデータファイルの糖尿病の点数日数の結果と一致しない。それは男女別々のファイルで傷病ごとの平均値を計算するため、当然ながら男の糖尿病の平均値と女の糖尿病の平均値が異なるからである。もし男女の糖尿病の点数日数の合計が男女合わせたデータファイルの結果とピタリ一致させるためには、男女とも共通の重みで配分しなければならない。そのために重み付けファイルのオプションがある。

したがって男女別の PDM 法結果を出すためには以下の手順をふまなければならない。

- 1)男女全体のファイルを PDM 法にかけてその結果を出力ファイルに保存する。
- 2)出力ファイルから傷病コード、AV 日数、AV 点数の 3 列を取り出して別名で保存(たとえば sampledata-magnitude.csv)する。
- 3)次にレセプトデータファイルを男女にわけ、sampledata-magnitude.csv を重み付けファイルに指定している別々に PDM 法にかける

以上の手順をふむと男の糖尿病の日数点数、女の糖尿病の日数点数は男女全体の糖尿病の日数点数とピタリ一致する。この他、地域別とか制度別とか、全体の部分を分析する場合は必ず上と同じ手順で重み付けファイルを作成して使用する。

下に重み付けファイルを Excel で表示したものを示す。重み付けファイルは必ず傷病コード、AV 日数、AV 点数の 3 列からのみなる csv ファイルでなければならない。

	A	B	C	D
1	101	3	570.39	
2	102	2.7	576.68	
3	103	4.6	896.65	
4	104	3	530.75	
5	105	4.1	551.27	
6	106	4.3	1327.81	
7	107	3	457.76	
8	108	0	0.00	
9	109	2.7	354.05	
10	201	4.3	1578.01	
11	202	3.5	1032.67	
12	203	3.6	1573.72	
13	204	3.6	487.57	
14	205	4.4	2124.56	

【10】重み付けファイルによる分析結果

ここであるレセプトの男女別集計を例に説明する。まず sampledata.csv を男女別に分け、sampledata-M.csv、sampledata-F.csv として別々に保存し下のように重み付けファイルを指定して再度「データ読み込み」を行う。

男性のファイル
sampledata-M.csv

レセプトデータ: D:\PDM\sampledata-M.csv

傷病マスターデータ: d:\PDM\119...

重み付けデータ: d:\PDM\sampledata-magnitude.csv

画面切り替え

データ修正

データ読み込み

処理状況:

読み込み件数

男女合わせた全体ファイルで得た重み付けファイル

読み込み件数	総件数
	総件数
	日数なし
	点数なし
	疾病コード
	該当疾病

【11】重み付けファイルによる結果

重み付けファイルによる分析結果は通常の分析結果の右に繋がって表示される(下図のように重み付けファイルを使わない場合はここは全てゼロとして表示される)。表示項目はAV 日数, AV 点数 配分()日数 配分()点数そして配分日数割合(%), 配分点数割合(%)であるが、このうち先頭の AV 日数, AV 点数は重み付けファイルの中身がそのままコピーされたものである。また重み付けファイルを使った場合、平均値の計算は行なわれないから通常の処理で表示される日数, 点数の標準偏差(SD)は当然ながら表示されない。

重み付けファイルで男女全のファイルを傷病分析したら、たとえば男の糖尿病の点数と女の糖尿病の点数は理論的には男女合わせたファイルの糖尿病点数とピタリ一致する。ただし、演算処理上小数点のあるケタ以下は切り捨てられたりするので厳密には小数点以下まではピタリとは一致しない。

Microsoft Excel - sampledata-rslt

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(M) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) MS P...
 分かりやすくするため「ウィンドウ固定」して表示した

重み付けファイルの結果は右側に表示される(使わない場合は全てゼロ)なお日数, 点数の標準偏差(SD)は無い

	A	B		K	L	M			
1	ファイル名	sampledata.csv	2						
2	傷病コード	傷病名	Σ 配分日数	Σ 配分点数	日数割合	点数割合	(重み)AVE(重み)	1日(重み)	Σ 配分(重み)
3	101	腸管感染症	22.9	69759	0.033	0.037	0	0	0
4	102	結核	2.1	10805	0.076	0.13	0	0	0
5	103	主として性的伝播	3.2	21800	0.116	0.262	0	0	0
6	104	皮膚及び粘膜の病	23.2	56142	0.844	0.674	0	0	0
7	105	ウイルス肝炎	42.8	68719	1.557	0.825	0	0	0
8	106	他のウイルス疾患	4	18106	0.146	0.217	0	0	0
9	107	真菌症	26.1	59885	0.95	0.719	0	0	0
10	108	感染症及び寄生虫	0	0	0	0	0	0	0

【12】PDM 法使用上の注意

PDM 法ではまずレセプトデータの点数を日数で割っている。したがって日数はゼロであってははいけない。しかし外来レセプトでは電話再診等で日数ゼロのレセプトが存在する。Ver.1 ではそれでエラー(#DIV/0!)がでた。そこで Ver2 ではプログラムが自動的に日数ゼロや空白のレセプトについては日数=1 日に設定する。そのため PDM 法で得られた日数の合計は本当のデータの日数合計よりやや多くなる(外来レセプトでは)。また日数もレセプトでは最大 31 日しかないはずである。たまたみ入力ミス等で 32 日以上の日数があると PDM 法は自動的に 31 日にセットするので注意。

このように日数については制約があるが、点数についてはゼロや空白でもさしつかえない。むろん点数がゼロではそのレセプトの点数はゼロとして扱われるがそれでも日数はちゃんと分析される。

またレセプトの中には傷病名が無記載のものがある。PDM 法では傷病名が記載されていないと分析対象からはずす。したがって傷病名無記載のレセプトが含まれていると PDM 法の日数点数の合計は本物のデータの合計よりも小さくなる。